

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和6年2月1日

事業所名 コベルプラス 高畑 教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	・個別療育、小集団療育、粗大運動を活動できる訓練室を確保させていただいています。	
	②	職員の配置数は適切である	1	3		療育数が増えたため、現在の職員数では適切だと評価しづらいです。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	3	・危険だと感じる角はクッション性のあるガードでカバーしています。	2階へ昇る手段が階段しかない。⇒保護者の方には、お子さんを抱っこしての移動等大変ご不便をおかけしていると日々感じています。構造上改善が難しいところではあります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	・清潔で、心地よく過ごせる個室環境となっています。また、保護者様が安心してお子さんの活動様子を見ていただけるよう引き戸窓にはマジックミラーを使用しています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0		

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	・事業所内外研修年間計画を策定し、積極的に参加しています。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	・子どもの適応行動の状況を図るため、コペルプラス本部によるアセスメントプログラムを使用しています。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	・お子さんの支援に必要な項目を適切に選択し、そのうえで、具体的な支援内容を設定しています。	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	・児童発達支援計画に沿って、個々の成長発達の変化のある都度、職員間で話し合いの場を持ち、お子さんに合った支援を提供できるよう努めています。	
--	---	-----------------------	---	---	---	--

⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	・コペルプラスオリジナルのプログラムに基づき、毎回変化のある内容で実施しています。 ・お子さんの成長発達に応じてプログラムの変更等ある場合は、職員間で話し合い調整しています。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0		
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0		
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0		打ち合わせのような大きな話の場合は療育の都合上できていない。今後もう少し長めに時間が取れたらいいなと感じている。⇒療育数が増え、レッスンの準備を優先するようになり、じっくりと話し合う時間は持てていません。今後、小集団を組む等配慮しまとまった時間を調整できるようにしていきます。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0		・職員間のコミュニケーションを通じて振り返りや報告を伝え合える関係性が構築されています。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0		
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0		

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0		
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0		
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	0		⇒医療的ケアが必要なお子さん等受け入れの際には、地域の関係機関や主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えていきます
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	0		
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0		⇒現在、移行支援のご要望はありません。移行支援として必要な時には、積極的に支援内容等の情報共有と相互理解を図ってまいります。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		未就学児が対象なため、幼稚園部が主となっている。今後できたらいいと思う。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0		
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	4		療育数が多いため、ご利用者様以外との交流は難しい。⇒主として個別、小集団療育に特化しているため、現状は実施していません。今後、保護者様よりご要望があれば、行事活動の一環として検討してまいります。
㉘						

	⑳	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	4		⇒そのような会議等機会があれば、教室長(管理者兼児童発達支援管理責任者)が積極的に参加しています。
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	・レッスン時、お子さんが取り組んでいる姿をマジックミラー越しに見ながら、現在の発達の状況や課題についてお話しさせていただき、保護者様と共通理解を図っている。	
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	3		ペアレントトレーニングはできていない。⇒コペル本部による「ペアレント・トレーニング」に基づいたプログラムで開催させていただけるよう予定している。
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0		
	㉔	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0		
	㉕	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0		
	㉖	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3		⇒今後、保護者様に対する支援として保護会等開催する予定としております。

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0		
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	「Instagram」を活用し情報発信しています。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0		
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0		
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4		⇒他施設からの当事業所見学や相談支援事業所との密な連携等、保護者様に承諾していただいたうえで、実施させていただく体制を整えております。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	・各種マニュアルにつきましては、保護者様の見やすい場所（玄関靴箱上）にファイリングしています。	⇒令和5年12月、令和6年3月には、火事、地震等、発生を想定した訓練を実施する予定としております。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0		
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1		⇒体験時やアセスメント時にお子さんの状況をご確認させていただいている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0		⇒食事提供はしていないので、現在実施していません。必要時には、医師の指示書に基づく対応をさせていただきます。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	・コペル本部へ「ヒヤリハット事例」を報告し、全国の	

					コペルプラス内、 当事業所内でも 共有しています。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。